



広沢川の水車

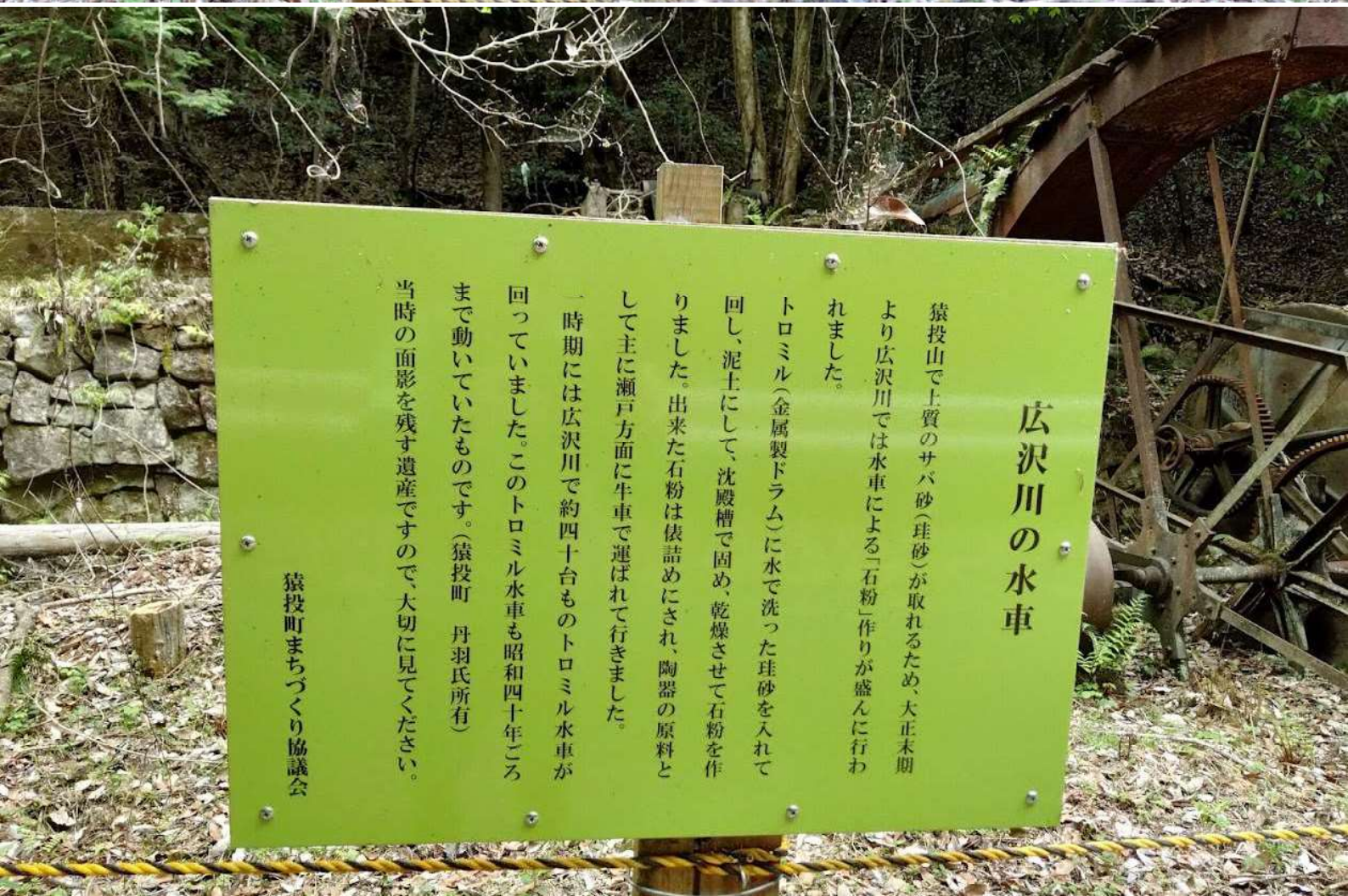
猿投山上質のサバ砂(珪砂)が取れるため、大正末期より広沢川では水車による「石粉」作りが盛んに行われてきました。

トロミル(金属製ドラム)に水で洗った珪砂を入れて回し、泥土にして、沈殿槽で固め、乾燥させて石粉を作りました。出来た石粉は俵詰めにされ、陶器の原料として主に瀬戸方面に牛車で運ばれて行きました。

一時期には広沢川で約四十台ものトロミル水車が回っていました。このトロミル水車も昭和四十年ごろまで動いていたものです。(猿投町 丹羽氏所有)

当時の面影を残す遺産ですので、大切に見てください。

猿投町まちづくり協議会



広沢川の水車

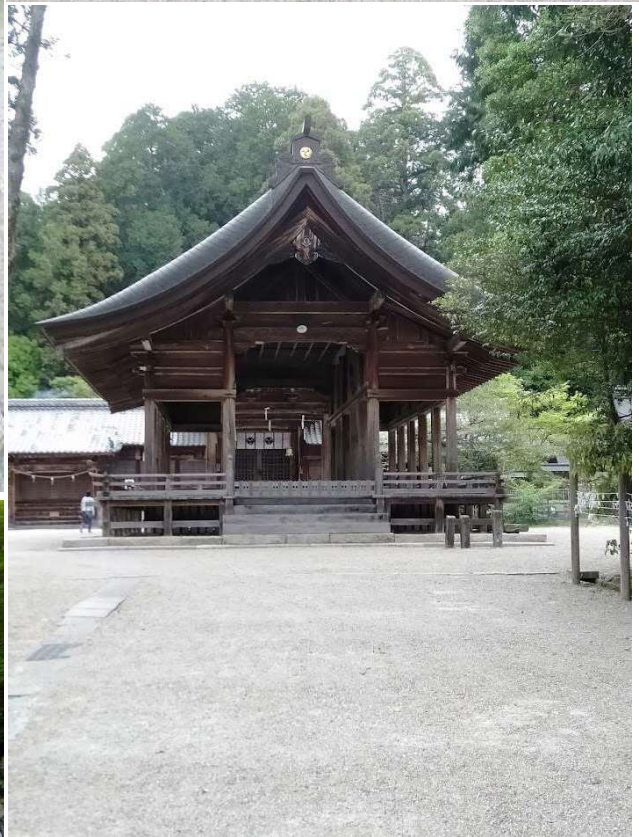
猿投山上質のサバ砂(珪砂)が取れるため、大正末期より広沢川では水車による「石粉」作りが盛んに行われてきました。

トロミル(金属製ドラム)に水で洗った珪砂を入れて回し、泥土にして、沈殿槽で固め、乾燥させて石粉を作りました。出来た石粉は俵詰めにされ、陶器の原料として主に瀬戸方面に牛車で運ばれて行きました。

一時期には広沢川で約四十台ものトロミル水車が回っていました。このトロミル水車も昭和四十年ごろまで動いていたものです。(猿投町 丹羽氏所有)

当時の面影を残す遺産ですので、大切に見てください。

猿投町まちづくり協議会



戻ってくると駐車場は満杯でした。
このコースはトレランの人が多かった。
歴史を感じさせる良いコースでした。
特にトロミル水車に興味を持った。